

中学生の部 入賞

「最悪だ。」

ぼくは、六年生のときに左ひざにけがをした。その日の朝は、歩けないほど足が痛くて病院に行った。バスケの試合で良くない転び方をしたことが原因で半月板の損傷だった。その日から、松葉杖での生活になって、大好きなバスケが出来なくなった。六年生の一月だったから卒業まで試合に出られないと思って最悪だった。

そんな時に、リハビリの先生に出会った。先生は、優しく、教えるのが上手で、ぼくの話がたくさん聞いてくれる先生だった。ぼくは、リハビリを続けていくうちに、先生に会うのが楽しみになって、リハビリを頑張ろうと思えるようになって、出来ることが増えていった。最終的には、歩けるようになって、走れるようにもなって、六年生の最後の試合にも出る事が出来た。ぼくは、とても嬉しかった。ここまでこれたのは、先生のお陰だ。先生には、感謝しかない。先生、ありがとう。